

現在ネパールで旅行代理店を営んでいる春日山紀子さんは、ユニフェム会員の知人で、ショップ用のネパール製品を買い付け送ってくださっています。彼女からネパールを紹介する興味深い話が届きました。



炊事をするネパールの女性

水力発電に頼っているネパールでは、乾期になると極端に電力が不足し始めます。電力確保のため「計画停電」が実施されているのですが、今年初めには毎日16時間の停電となり、首都カトマンズですら生活時間帯にほとんど電気が来ないような日もありました。富裕層やホテル、レストラン、商店などでは、自家発電機を備えるところも増え、私も家に簡易蓄電器を設置してしまいましたが、これらの装置は一般庶民にはまだまだ無縁。さぞかし不便な毎日を送っているかと思いきや、庶民にそれほど困った様子は見受けられませんでした。それは、所持している家電数が少ない家庭もけっこうあるためなのです。

たとえば、ご飯を炊くのは圧力鍋、洗濯はたらいで手洗い、掃除はほうきで。生鮮食品は毎食調理前に買い出しに行くことが多く、冷蔵庫がなくても不便はありませんし、電子レンジなどその存在を知らない人も。冷暖房器具の代わりは、夕涼みや木陰、日向ぼっこに焚火、といった感じです。停電で困るのは、夜、照明としての電気が使えないことくらい。しかし、日没後から就寝までの短時間ろうそくを灯せば解決すること。朝は日の出とともに起きれば照明は不要です。電気への依存が少なく停電の影響もそれほど受けない庶民の暮らしに、うらやましささえ感じてしまうほどでした。雨期真っ最中の今は停電時間も短くなっていますが、秋になるとまた増えるのが例年の実情。使いたいときに電気を使える生活に感謝しつつ、毎日を過ごしています。

(春日山紀子)

お母さんと子どものためのシンポジウムに参加して



7月4日(土)国連大学ウタントホールにおいて、国際シンポジウム「お母さんと子どものために～私たちができること～」が開催されました。シンポジウムに先立ち、主催のお茶の水女子大学学長の趣旨説明がありました。その後、秋篠宮紀子妃殿下より本シンポジウムの意義を深めるご挨拶を賜りました。

第1部では、5人のシンポジストの開発途上国を中心にした子どもや女性を取り巻くグローバル社会の現状(教育、健康、妊娠、出産)についての提言やフロアの質疑等によって進みました。第2部では、各女子大の学生が、今を生きる世界の女性や子どもに向けて、日本に生きる「私たちができること」を真剣に考え、それを実行に移すその「起点」となる示唆の深い報告を行いました。開発途上国の取材をもとにした報告から、「私たちにできること」について参加した一人ひとりの意識を高め、いろいろな機会に発信していくことの必要性を深く認識しました。ユニフェムよこはまからは10数名が参加し、ユニフェム日本、ユニフェム東京とともにパンフレット類を置いて広報活動を進めました。本シンポジウムの意義と重なる活動となり「私たちにできること」をいっそう推進することの重要性を実感しました。

(広報部会 桑原正子)

ユニフェムの活動を知るために

8月1日(土)男女共同参画センター横浜でユニフェムよこはまサマーセミナーが行われた。ユニフェムの活動を広げるには、より深く知ることからと今回のテーマになった。前半はユニフェムの基本事項について、3人で分担して話し、後半は参加者がグループに分かれ、自由な話し合いにより今後の活動発展に向け理解を深めた。

ユニフェムよこはまの活動：その設立の経緯や活動理念、会員構成や組織、これまで15年間に行ってきた多様な活動、財政、拠出金の行方、途上国支援先への研修等を解説。今後の課題はメディアを通じた広告・PR、会員の拡大の工夫等。(牧野)

ユニフェムとユニフェム日本国内委員会：国連女性開発基金(ユニフェム)は1975年第1回世界女性会議での多くの女性団体の呼びかけにより翌76年国連総会決議で設立。女性の地位向上、ジェンダー平等を促進する取り組みに、途上国女性への財政、技術支援などを行う。支援する民間組織の国内委員会は、現在17あり、ユニフェム日本はそのひとつ。その活動目標や升本基金活用など様々な展開についてまとめた。(渡邊)

ユニフェムに関わる国際協定等：北京行動綱領、女性差別撤廃条約、国連安保理決議1325号、同1820号、ミレニアム宣言・2015年までに達成すべき課題等について解説した。(青沼)

グループ話し合いのまとめ：ユニフェムの活動が見えにくく、会員拡大に向け説明しにくい。メディアに取り上げてほしい。広告塔のような親善大使が必要。まだ国内委員会と地域委員会の関係がはっきりしない。活動で得た支援金が直接支援先に届かないなどいろいろ制約がある。ユニフェムを誰でもきちんと説明できるようにしたい。初めての人が入りやすい雰囲気作りをする。ショップやイベントを充実させそれがPRになる工夫をする。定年後に余暇がある人に関心をもってもらえるよう努力する。

以上、参加者は多くないが充実した学習会となった。

(事業部会 石井慶子)



私に出来ることは・・・

総務部会 市川ゆき子



戸塚に住んでいる私は、男女共同参画センターを利用した時に、こじんまりしたショップの入口に「ユニフェム」の文字を見て、聞き慣れない名称と通り過ぎていました。その後、ここで活躍なさっている村松弘恵様より、その理念と取り組みを伺い、音楽会や映画会に参加する中で次第に私に出来ることは、と自問するようになっていたのです。この4月より比較的時間に余裕ができたため会員になりました。

私は中国の北京で生まれ、幼児期を過ごしました。土塚沿いに中国の大柄なおばあさんが、赤ちゃんのような小さな足でよちよち歩きをしていた光景が脳裏に焼きついています。

「纏足」といい、幼児のうちに足の成長を止め、小さいほど良しとして結婚の条件となり、男性が好んでいた事を、成人になってから知りました。今では禁止されていますが、中国

の一つの風習として、簡単に見過ごすことのできない心の棘になっていました。昔からの風俗習慣や戦時下だけでなく、現代でも女性の尊厳を犯す行為が数多くあることを知り心が痛みます。

私は長い間、子どもに関わる仕事をしてきましたが、そこからは多くの女性が逞しく生き抜く姿を見てきました。子どもたちの健やかな成長を願ってきた私にとって、その子どもたちを産み育む女性が、ひとりの人間として差別なく安心して生活できることは究極の願いです。ユニフェムの理念はとてつもなく大きなものですが、時々参加させていただき、活動なさっている皆様の明るく機敏な姿に共感いたしました。ごく身近なところから私に出来ることはないかしら、何かのお役に立てないかしらと、一步を踏み出したところです。

きっかけは「出会い」から・・・

広報部会 石井澄子

「お母さん一人を助けることは子供4人を助けることなのよ」

14年前、会員である小川節子さんから聞いたこの言葉は今もはっきり覚えています。私よりはるか年上の、まして被爆者である彼女がユニフェムの活動のために大きなリュック姿で私の前に現れたのです。稲妻のようなショックをうけました。この時をきっかけにユニフェムと関わるようになったものの、国際協力というには、あまりにも無知、無力な私。でもきっと何かあるはず。些細な事でもいいはず……はるかかなたの女性たちの現状を知れば知るほど、苦悩や貧困から抜け出し、同じ地球に命あるものとして夢と希望をもって生きて欲しいと願いました。五十歳半ばを超え、私自身、無力な状態は変わってないけれど、国境や宗教を越えた女性を思い活動する仲間たちの生き方に感銘を受け、時には勇気付けられ、共に歩む幸せを感じています。自身も母としてわが子に伝えるべき事があるとすれば、「人を愛して。それが全ての幸せに繋がる」。(8月14日、久々にお会いした小川さんは79歳の今も変わらぬ笑顔でお元気でした。)



「初めまして」

事業部会 押尾美智子



「ユニフェムよこはま」には、牧野さんの紹介で、昨年の秋入会いたしました。

それまでは、会員の皆様には申し訳ないのですが、「ユニフェム？ユニセフなら聞いたことあるけれど。」という無知な私でした。子供ができたのをきっかけに息子がユニセフに入会したのです。ならば私も、他の女性のお役にたてればと思い決めました。

今まで、ショップ当番と、映画会、Y150のお手伝い位しか、参加しておりませんが、イベントや部会の折の先輩の皆様の優しい声かけと、笑顔と知性に励ましをうけ、少しでも近づけたらと思うようになりました。私達の出来ることは「大河の一滴」かもしれませんが、この輪が広がり世界中の貧困やDV、その他の不幸が減ってゆくことに貢献できればと思います。こういう運動は、会員のみでは限界があると思いますので、会員ではない一般の方々を、いかに上手に巻き込み参加していただくかにかかっていると

思います。これから会う人ごとにお話をして、お役にたたいです。宜しくお願いします。

ユニフェムよこはま 設立15周年記念 チャリティコンサートへのお誘い
ドミトリー・フェイギン & 新見・フェイギン・浩子 チェロ&ピアノDuo

日時 2009年9月25日(金) 14:00開演(13:30開場)

会場 アートフォーラムあざみ野 レクチャールーム

曲目 ・ショスタコーヴィッチ ソナタ

・アレンスキー 4つの小品

・ラフマニノフ ヴォカリーズ 他

入場料 一般 2,500円(当日3,000円) 学生 2,000円

申込 FAX、Eメール、電話、はがきのいずれかでユニフェムよこはま事務局へ。



ユニフェム日本国内委員会ニュース

■ ユニフェム日本・DVに「ノー」と言おうキャンペーン

昨年、エイボン社は世界で「女性のエンパワメントプレスレット」を販売し、100万ドルをユニフェムが管理する「暴力撤廃信託基金」に寄付しました。日本でも、エイボン・プロダクツ(株)が全国でこのプレスレットを販売し、収益をユニフェム日本に寄付されました。ユニフェム日本はその寄付金を基金に、DV根絶にむけての実効性ある助成金事業を募集し、選考の結果、全国9カ所で多彩な催しが実施されます。ユニフェムよこはまも応募。来年の国際女性デーイベントのテーマを「ドメスティックバイオレンス(DV)の根絶」とし、講談師の宝井琴桜さんをお呼びするなど、画期的なイベントを企画中です。8月28日(金)には、助成金の贈呈式を東京ウィメンズホールで開催。作家落合恵子さんの「誰をも犠牲にしない幸福…崖っぷちからの生還」の講演には、参加者から共感に満ちた拍手が寄せられました。

■ シンガポール・国内委員会連絡会の開催

8月6~7日、シンガポール国内委員会主催の、国内委員会連絡会がシンガポールで開催され、日本からも、坂東眞理子理事を代表に4名が参加。参加報告が待たれます。

秋・冬の活動予定

月日	内容	会場
9/5(土)6(日)	横浜国際フェスタ 2009	パシフィコ横浜
9/25(金)	チャリティコンサート	アートフォーラムあざみ野
10/4(日)	Y150磯子国際交流フェスティバル	磯子区役所
10/4(日)	フォーラムまつり 2009	フォーラム(戸塚)
10/18(日)	フォーラム南太田まつり 2009	フォーラム南太田
10/24(土)	アートフォーラムあざみ野フェスティバル	アートフォーラムあざみ野
11/23(月)	青葉区民交流センターまつり	青葉区民交流センター
11/28(土)	チャリティ映画上映会 「こどもの情景」	アートフォーラムあざみ野
3/6(土)	国際女性デー DV根絶企画 講談/ミニシンポジウム	フォーラム(戸塚)

<訂正とお詫び>NL44号p11(社)国際女性教育振興会神奈川県支部の内容の一部に誤りがありました。下記の通り訂正しお詫びいたします。(正)文部省から欧米諸国に派遣された女性たちが中心となり、1971年国際婦人教育振興会を設立。1983年社団法人となり、2006年現在の名称に変更

*新しいお仲間です。

津島三代子・河合晴美・宮崎正男
賛助会員：石井真美子・黒瀧せつぎ

*ご寄付ありがとうございました。

竹内滋・宮坂洋子(敬称略)

ユニフェムよこはま 第45号

発行日 2009年9月1日
発行 ユニフェムよこはま
事務局 〒244-0816
横浜市戸塚区上倉田町435-1
男女共同参画センター横浜内

TEL・FAX 045-869-6787
Eメール unifemyokohama@blue.ocn.ne.jp
Webpage <http://www.unifemyokohama.org/>
編集・デザイン ユニフェムよこはま広報部会